施策評価調書(2年度実績)

					施策コード Ⅲ−・	4-(1)	
政策体系	施策名	九州の東の玄関口としての拠点化	所管部局名	企画振興部、土木建築部	長期総合計画頁	149	
以來体示	政策名	「まち・ひと・しごと」を支える交通ネットワークの充実	関係部局名	企画振興部、商工観光労働部、土木建築部			

【 I. 主な取り組み】

取組No.	1	2	3	4		
取組項目	広域公共交通ネットワークの充実・強化	大分の強みである港湾や航路の 充実を生かした拠点化	大分空港の利便性向上や利用促進	陸上公共交通の結節点の強化		
取組No.	lo. (5)		${\mathfrak T}$	8		
取組項目	県内を発着する物流ネットワークの充実	港の機能強化	物流拠点の集約化	新たな貨物需要の創出と モーダルシフトの推進		

【Ⅱ. 目標指標】

指標			基準値		2年度			6年度	目標達成度(%)				
	f自 1床 		年度	基準値	目標値	実績値	達成度	目標値	25	50	75	100	125
i	フェリー・航空輸送人員(千人)	123	H30	3,721	3,770	1,365	36.2%	3,900					
ii	県内港湾の公共埠頭取扱貨物量(千フレート・トン)	568	H30	41,500	42,600	38,307	89.9%	45,000					

【皿. 指標による評価】

	評価	理由等	平均評価
i	著しく不十分	新型コロナウイルス感染症が拡大する中、県境をまたぐ移動自粛の動きを受け、広域移動手段であるフェリー及び航空の輸送人員はともに激減し、目標値を達成することができなかった。	著しく
ii	達成 不十分	新型コロナウイルス感染症の影響により、移動が制限され、フェリーの利用が減少したため、達成率が89.9%となった。	不十分

-362-

【Ⅳ. 指標以外の観点からの評価】

T T A	
取組 No.	指標以外の観点からの評価
1	・フェリー及び航空事業者による航路利用の促進に向けた取り組み支援に加え、国の臨時交付金を活用して緊急誘客事業を実施した。
2	・フェリー利用者の回復を図るため、フェリーターミナル内の検温器設置やフェリー内の大型空気清浄機設置・抗ウイルスコーティング塗布など、安全・安心の取り組みに対して助成した。
3	・大分空港への海上アクセスの実現に向け、運航事業者及び旅客ターミナル工事の設計者を決定した。 ・国内線では8年ぶりとなるPeach Aviationの新規就航により、成田線の利便性が向上した。
4	・一日乗降客数が3000人以上の駅のうち、R2年度は佐伯駅と大在駅の バリアフリー化が完了し、9駅中7駅が実施済となった。
⑤	・物流ネットワークの充実を図るため、国道217号平岩松崎バイパスなど、港湾へのアクセス道路の整備を推進した。
6	・増加する車両・貨物に対応するため、臼杵港の新フェリーターミナル等の整備を推進した。また、R2年度から国直轄事業により大分港大在西地区のRORO船ターミナルの整備と、別府港石垣地区のフェリー岸壁の整備に事業着手した。
7	・大分流通業務団地において、卸売業や製造業等の2社に対して分譲を 行った結果、全体の分譲率は78.7%(対前年2.6%増)となった。
8	・ポートセールスにより、他港利用貨物の大分港(大在CT)への利用転換を促進した結果、R2年度は、外貿の実入りコンテナは過去最高を更新し、30,052TEUとなった。 ・企業訪問や県内外セミナー開催により、R2年度は、RORO船利用促進助成件数が、8件増え18件となった。

【V.施策を構成する主要事業】

	・・ 心不と [
取組	事業名(2年度事業)	事務事業評価					
No.	● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●	成果指標の達成率(%)	掲載頁				
12 34	九州の東の玄関口としての拠点化推進事業	36.2	364				
3	国際航空路線誘致・拡充促進事業	_	364				
⑤	(公)道路改良事業	_	368				
58	ポートセールス体制強化推進事業	82.3	364				
30	東九州海上物流拠点推進事業	95.6	365				
6	港湾整備事業	_	365				
7	流通拠点整備推進事業	99.6	226				

【VI. 施策に対する意見・提言】

○九州の東の玄関口としての拠点化戦略フォローアップ会議(R2.8)
・ホーバークラフトについて、移動時間を短縮するためには港へのアクセスが非常に大事。

【3 総合評価と今後の施策展開について】

総合評価	施策展開の具体的内容
С	 ・九州の東の玄関口としての拠点化戦略に基づき、人の流れ・物の流れの拠点化を進めるための事業を実施する。 ・大分港については、R3年度から県事業で埠頭用地の整備に取り組んでいく。 ・別府港については、-5.5mフェリー岸壁の整備事業を推進していく。 ・大分空港の国際線については、韓国線の早期再開と定着のための利用促進、中国・台湾その他アジア地域からの路線誘致に引き続き取り組む。空港への海上アクセスについては、ホーバークラフトによる運航の実現に向けた取り組みを進める。 ・フェリー及び航空事業者の特性を生かした企画商品の造成を支援し、利用者回復を図る。 ・積極的に企業を訪問し九州の東の玄関口としての拠点化の進展に伴う大分流通業務団地の優位性をPRすることにより、早期完売を目指す。